



2012年7月12日

お客様向け資料

BNP パリバインベストメント・パートナーズ株式会社

ブラジルの政策金利の引き下げについて

ブラジル中央銀行は、現地 2012 年 7 月 10 日・11 日の両日開催された COPOM（定例金融政策委員会）において、Selic（政策金利）を 0.50%引き下げ、年率 8.00%とすることを、全会一致で決定しました。

ブラジル中央銀行は、世界経済の減速によるブラジル経済への影響を懸念して、2011 年 8 月の COPOM から金利引き下げを実施、8 月からの引き下げ幅の合計は 4.50%となっています。

ブラジルでは、5 月鉱工業生産が前月比-0.90%と、3 ヶ月連続で前月比マイナスとなったことに加え、6 月の製造業購買担当者指数（PMI）も 48.5 となり、4 月、5 月に続き景況感の分かれ目とされる 50 を下回りました。5 月の失業率は 5.8%と引き続き低水準に留まっていますが、失業率は景気の運行指数と考えられており、足元ではブラジル経済の減速懸念が強まっています。

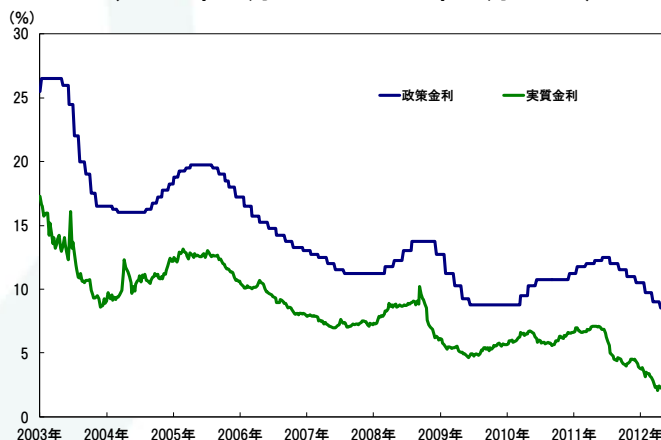
ブラジル政府・中央銀行はこれまで、利下げ、減税や輸入関税の引き上げ、レアル安政策、信用拡大政策といった景気刺激策を導入してきましたが、景気の本格的な回復にはつながっていないと見られるほか、世界経済見通しに対する減速懸念が再度高まっていることから、今回の COPOM において、0.50%の金利引き下げを決定したと考えられます。これにより、政策金利は史上最低の 8.00%となりました。

ブラジル政府・中央銀行は今年 5 月に、一層の金利引下げを行い易くするために貯蓄預金の金利制度を変更しており、インフレも、6 月の拡大消費者物価指数（IPCA）が景気減速を受けて前月比+0.08%、前年同月比 4.92%と急速に低下していることから、今後も国内景気の回復に必要であれば、7%台までの追加利下げを行う可能性もあると考えられます。

本利下げはブラジル株式市場の引け後に発表されました。この利下げを受け為替市場では、対米ドルは 1 米ドル=2.0 レアル台、対円は 1 レアル=39.1 円台と、足元ではややレアル安で推移しています。

ブラジルでは、今後は利下げを含む景気刺激策が奏功し、国内景気も回復すると期待されていますが、景気の減速懸念や欧州債務問題に対する不安感が払拭されないなど、厳しい環境が継続するとみられることから、当面は慎重な見方を採ってまいります。

ブラジル政策金利と実質金利の推移 (2003年2月1日～2012年7月11日)



2012年7月11日
8.50%→8.00%へ
0.50%の引き下げ

*政策金利：Selic を使用。
*実質金利：名目金利とインフレ率を
使用し算出
(データ出所：ブラジル中央銀行)

本資料は、BNP パリバアセットマネジメント ブラジルが作成した資料をもとに、BNP パリバインベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する当社の見解を提供することを目的として、2012年7月12日に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。